

再考現学／Re-Modernologio Phase3：痕跡の風景

2012年2月18日（土）—3月25日（日）10：00—18：00

会期中無休／入館料：無料

青森公立大学国際芸術センター青森

<参加アーティスト>

佐々木愛（ささき・あい）

シュガーペインティング・ドローイング／大阪出身

下道基行（したみち・もとゆき）

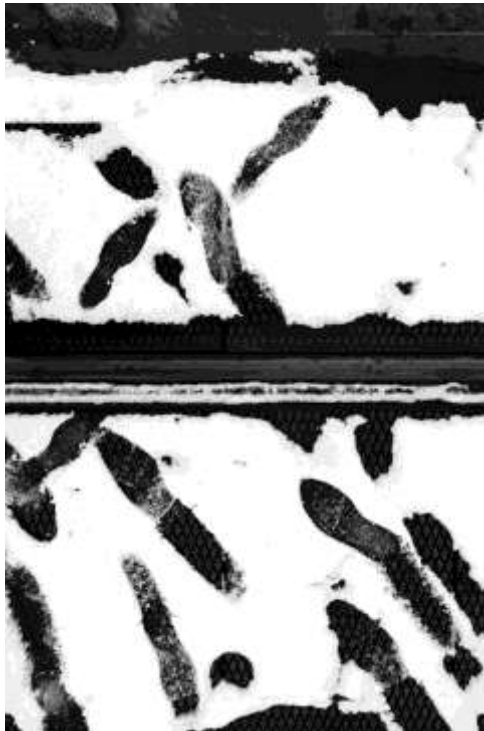
写真・インスタレーション／岡山出身

アマンダ・ベランタラ（Amanda BELANTARA）

サウンド／アメリカ出身

ジュー・チュンリン（JOO Choon Lin）

アニメーション／シンガポール出身



下道基行《crossover》

展覧会概要

国際芸術センター青森では、2011年7月から青森県出身の建築家、今和次郎が提唱した「考現学」をテーマにした滞在制作展覧会シリーズ「再考現学／Re-Modernologio」を開催してきました。

最終章となる phase3 は「痕跡の風景」という切り口で現代社会を探究します。今和次郎が考現学の中で観察し、記述してきた様々な現象や事柄は、人々の生活や活動の痕跡と捉えることが出来ます。今和次郎が取り上げた人々の行為のかたちは、あるものはとてもささやかで、私達が日常生活の中ではわざわざ目に留めないような取るに足りないものです。しかし、考現学という枠組みの中で今和次郎の目を通して見る街は、様々な魅力的な物事に溢れ生き生きと輝き、新鮮な驚きを私達にもたらしてくれます。

同じようにアーティストもまた、独自の目で街や人や風景を見つめています。そして発見したものごとを独自に解釈し、作品として提示します。発見されたものごとはアーティストに咀嚼されることで別の意味を持ち、新たな世界の見方を教えてくれるかもしれません。目の前の現象や風景に新しい物語や意味を発見し、それを何らかのかたちで提示すること、それは、人間だけが行う「創造」という行為の始まりだとも言えるのではないのでしょうか。

本展では、佐々木愛、下道基行、アマンダ・ベランタラ、ジュー・チュンリンの4人のアーティストが発見した人間の痕跡が作品として提示されます。その作品は私達に新しい風景や世界をもたらすかもしれません。

タイトル：「再考現学／Re-Modernologio」 phase3:痕跡の風景

会 期：2012年2月18日（土）－3月25日（日）10：00－18：00（会期中無休）

入 館 料：無料

会 場：青森公立大学 国際芸術センター青森 展示棟ギャラリーA、B、AV ルーム

主 催：青森公立大学 国際芸術センター青森

助 成：平成23年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

協 力：nap gallery、ホテル山上、AIRS、ACAC 学生サポーター（順不同）

○同時開催

「ヴィジョン・オブ・アオモリ vol. 8 残雪のブルースー柿崎康写真展」

会 期：2月18日（土）～3月25日（日）10：00－18：00

会 場：展示棟ラウンジ

会期中無休 入場無料

○オープニングイベント

☆オープニング＋アーティストトーク

日 時：2012年2月18日（土）13：30－15：30／無料

場 所：展示棟ラウンジ

参加アーティスト全員によるトーク。制作について、作品についてのお話を伺います。

お問い合わせ

青森公立大学 国際芸術センター青森

〒030-0134 青森市合子沢字山崎 152-6

TEL:017-764-5200 FAX:017-764-5201 MAIL: acac-1@acac-aomori.jp

ホームページ: <http://acac-aomori.jp/>

担当学芸員：近藤由紀

展覧会構成・アーティスト紹介

○ギャラリーA



制作風景

佐々木愛

佐々木愛は、お菓子作りに使われる砂糖と卵白を混ぜ合わせたロイヤルアイシングを使って、白い壁に白い図像を描くシュガーペインティングで知られるアーティストです。その図像は、家、山、船、植物文様などをモチーフとし、細かな模様の繰り返しによって形が描かれます。また、ドローイング、水彩画、油彩画、版画なども手掛けていますが、全ての作品に共通するのは、どこでもないけれど、どこかで見たような、人間の太古の記憶にあるかもしれない共通の故郷のような風景を想像させるということです。

本展ではギャラリーAの壁面にロイヤルアイシングで図像を描きます。また、ドローイングも合わせて展示します。

<主な個展>

- 2004 「HOME」、京都芸術センター / 京都
- 2006 「inner forest」、CAS (Contemporary Art and Spirits) ギャラリー / 大阪
- 2007 「Gray-scape」、IRCA 国際藝術研究センターギャラリーオープン / 京都
- 2008 「GOLDEN」、graf media gm / 大阪
- 「Invisible scape」、Toi O Poneke Art Centre / ウェリントン (ニュージーランド)
- 2011 「霧の中へ」、主水書房 / 大阪

<主なグループ展>

- 2005 「かわりゆく世界で」、国際芸術センター青森 / 青森
- 2007 「VOCA 展-新しい平面の作家たち」、上野の森美術館 / 東京
- 2008 「waving」、Gallary zandari / ソウル (韓国)
- 2009 「もうひとつの森へ」、メルシャン軽井沢美術館 / 長野県
- 2010 「内在の風景-Immanent Landscape」 ウェストスペース / メルボルン (オーストラリア) (2011年小山市車屋美術館へ巡回)
- 2011 「管啓次郎×佐々木愛 Walking 歩行という経験」、モエレ沼公園ガラスのピラミッドギャラリー / 札幌

下道基行



《crossover》

下道基行は、人々の生活の痕跡を残す風景や街の人々による創造的な行為の結果生まれる物や状態を、写真や文章もしくは物そのものによって作品として提示します。何気なく行われるささやかな人間の行為の跡を、写真を用いて視覚的に拾い集める彼の制作スタイルは、本展において、今和次郎が考現学で用いた手法に最も近い態度と言えるでしょう。本展では、彼が青森の街中をくまなく歩いて発見した人々の行為の痕跡の写真が展示されます。ギャラリーA の広い空間のなかでどのような展示が行われるのか、空間の使い方も見どころです。

<主な個展>

- 2008 「戦争のかたち—Mémoires de guerre—」、エスパスジャポン／パリ
- 2009 「Air/空」、梅香堂／大阪
- 2010 「日曜画家/Sunday Painter」、水戸芸術館クリテリウム 79／茨城
- 2011 「Dusk/Dawn/ おやすみのかなた」、Nap gallery／東京
「bridge」、Gallery αM /東京

<主なグループ展>

- 2008 「VOCA 展」、上野の森美術館／東京
- 2009 「第一回 所沢ビエンナーレ美術展『引込線』」、西武鉄道旧所沢車両工場／埼玉
- 2010 「共鳴する美術」、倉敷市立美術館／岡山
- 2010 「岡山美の回廊」、岡山県立美術館／岡山
- 2011 「絶滅危惧・風景 Breaker project」、大阪近代美術館準備室／大阪
「Living in an Out-Of-Place」、鳳甲美術館／台北（台湾）
「NOWHERE」、ジャパン・ファンデーション・センター／ハノイ（ベトナム）
「TOKYO STORY 2010」、トーキョーワンダーサイト渋谷／東京
- 2012 「この素晴らしき世界—アジアの現代美術から見る世界の今」、広島現代美術館／広島

○ギャラリーB



ジュウ・チュンリン

ジュウ・チュンリンはこれまで、2009年に福岡、2010年に愛知での滞在制作を経験し、日本での滞在制作は今回が3回目となります。手描きのドローイングや模型を少しずつ動かして1枚ずつ写真を撮り、それをつなぎ合わせるコマ撮りアニメーションと、それを上映する空間を構成することの2つの組み合わせが彼女の主な表現手段です。作品には滞在した土地や建物などの風景が巧みに取り入れられており、現実の風景の中で起こる空想的な出来事を見ていると、現実と非現実の境界が曖昧になるような感覚を覚えます。

本展においても、彼女は私たちが日常的に目にするある物に着目し、作品の中で重要な役割を与えています。ギャラリーBでは、窓から見える風景と彼女が創りだしたものが混ざり合った、新しい風景が見られることでしょう。

<主な個展>

2009 「Come Out And Play at 8Q!」、8Q シンガポール美術館／シンガポール

2011 「Too Big In the Tank, Singapore Art Festival 2011」、Tunnel Esplanade／シンガポール

<主なグループ展>

2008 「The Artists Village: 20 Years On, OPEN」、シンガポール美術館／シンガポール

2009 「第4回福岡アジアトリエンナーレ2009」、福岡アジア美術館／福岡

「Lost in the City, Singapore Art Show」、シンガポール国立美術館／シンガポール

「The Great Animation Challenge」、ライトハウスメディアセンター／ヴォルヴァーハンプトン (UK)

2010 「愛知トリエンナーレ2010」、長者町／愛知

「六本木アートナイト」、森美術館／東京

「The Artists Village: B.E.A.U.T.Y Show at ASTRONOMICAL FRONTIERS」、BKS Garage／コペンハーゲン (デンマーク)

2011 「Roving Eye」、Sorlandets Kunstmuseum／ノルウェー

○AV ルーム



制作風景

アマンダ・ベランタラ

人類学・民族学的な観点から、人間の生活を映像で記録する「映像人類学」という学問があります。アマンダ・ベランタラは大学で映像人類学を修め、人々の行いから生まれる音に着目した作品を制作するアーティストです。

今回の滞在では青森の人々にインタビューを行い、それを元に街中の様々な場所で収録した映像や音を用いた作品を展示します。彼女が採集した音は、青森に暮らす私たちが普段聞き慣れて気にも留めないものかもしれません。一体どこで、どのような音が聞こえるのか、展示を見てから街で実際に確かめてみるのもいいかもしれません。

<主な個展>

2011 「Kinokologue 1」、Madlab／マンチェスター（UK）

<主なグループ展>

2009 「Weavingscapes—紡景」、秋吉台国際芸術村／山口

2010 「Association Projects」、Castlefield Gallery／マンチェスター（UK）

2011 「かれいざわアート ICHIBA」、王余魚沢倶楽部／青森

主な映像上映

2009 「Alternative FilmVideo Festival」／ベオグラード（セルビア）

「国際ビデオアートフェスティバル」／キューバ

「京都アカデミック・フィルム Expo」、京都大学／京都

「Nordic Anthropological Film Festival」／スロベニア

2010 「Contro Sguardi Anthropological Film Festival」／イタリア

2011 「Crossing Listening Paths」、World Forum for Acoustic Ecology／ギリシャ

関連イベント

○ジュー・チュンリン「スタジオ訪問！」

展覧会オープン直前のスタジオに遊びに行ってみます。

日時：2月12日（日）13：30－15：00 ※展覧会オープン1週間前です

場所：展示棟ギャラリーB

参加費：無料

定員：20名（申込不要）

○佐々木愛版画ワークショップ

「大切な人に贈る オリジナルのメッセージカードをつくる」

エッチングとアクアチントの技法で、メッセージカードを作ります。

日時：2月25日（土）、26日（日）（2日連続）10：00－16：00

場所：創作棟ワークショップスタジオ

参加費：1000円

定員：20名（要申込）

○アマンダ・ベランタラ 音イベント「キノコフォンを聞こう」

青森で集めた音と、世界中から集まった音をみんなで聞いてみます。

2月19日まで、どなたでも録音したものをネットを通じて提出することができます。

日時：3月3日（土）13：30－15：00

場所：創作棟講義室

参加費：無料

定員：20名（要申込）

○ダンスワークショップ「身体の風景」

長内真理、平松み紀の2人の講師によるダンスワークショップ。

日時：3月17、18日（土、日）10：00－16：00

場所：創作棟講義室

定員：15人（要申込み）

参加費：500円

○公開セッティング・リハーサル

ダンス公演のセッティングとリハーサルを公開します。随時入退場可能。

日時：3月19日（月）10：00－16：00

場所：青森公立大学交流ホール

○ダンス公演「身体の風景」

長内、平松両氏とワークショップ参加者によるダンス公演。

日時：3月20日（火・祝）

場所：青森公立大学交流ホール

定員：80名（直接会場にお越しください）

○学芸員による鑑賞ツアー

学芸員による作品解説を行います。

3月4日（日）15：00－16：00

3月11日（日）15：00－16：00